第５回国際柔道医科学会議に参加して

in Rio de Janeiro

船　山　　玲

私が本学会に参加するに至った理由は，本学久米先生の２年生の始めの授業で自分の将来について話したことがきっかけであった．

私の夢は柔道整復の技術を身につけ，ブラジル，特にリオ デ ジャネイロで活動することである．私が生まれ育った東京都台東区では，浅草で毎年夏にサンバ カーニバルが開催される．母親の影響もあり私自身がカーニバルに参加し，ブラジルの音楽や祭りに興味を持ち，リオのカーニバルに参加する者の身体のケアを行いたいと考えている．この夢を実現させるためには，自身の目でその国の風土や習慣，そして医療の状況などについて経験することが必要であると考えていたため，この学会へ参加することとなった．

私たちは成田空港から中東ドバイ経由で，ブラジルのリオ デ ジャネイロを目指すこととなった．成田からドバイまで約11時間，ドバイの空港内で３時間飛行機を待ち，さらに約14時間30分のフライトとなった．ドバイの空港税関を通る際，私は写真を撮ってしまった．警備員が血相を変え走って来て，カメラのデータを全て消去され厳重注意を受けた．初めての海外渡航のため，写真に様々な思い出をおさめようとしていたが，とても怖い経験をした．

日本とブラジルの時差は12時間であったが，時間を計算して時差ぼけをコントロールすることができた．長いフライトを終え感じたことは，飛行機に乗ることが始めての私にとり，鉄でできた巨大な重量物が空を飛ぶという恐怖を拭いきれず，テイク オフの抵抗感は今でも忘れられない．しかし，この体験を乗り越えたことで，ブラジルではむしろ生まれて初めての挑戦に楽しさと喜びを実感していた．

ブラジルは滞在３日間と短期間であったが，ご一緒させていただいたのは，本学の先生だけでなく，国士舘大学・近畿大学・順天堂大学・立命館大学・国際武道大学・日本柔道整復師会の先生方で，中には柔道金メダリストの先生もいた．今回の旅で一番勉強になったことは上下関係であり，まだまだ子供の私にとって大変勉強になった．また，異国の人とのコミュニケーションの取り方，国際学会，英語能力の必要性など多くの影響を受けた旅であった．この旅での経験について順を追って振り返ることとする．

1日目

ブラジルに到着し，リオプレジデントホテルにタクシーで向かう．大きな予定がなかったため，ホテル到着後に先生方と夕食に出掛けた．ご一緒させていただいた先生方は前述の通りであったため，学生の私は場違いとの不安に駆られた．私は今まで厳しい上下関係を経験したことが少なかったため，どのようにコミュニケーションを取るべきか対応に苦慮し，味わいながら食事をすることはできなかった．先生方は，徳安先生と久米先生の教え子ということで優しく接してくれ，私のミスに対しても適切に注意していただいた．これらの経験は普通の海外研修では体験できないものと思われ，これら小さな１つ１つの経験が自身の人間として，医療者としての成長につながるということを知ることができた．

写真１　夕食の様子

東京有明医療大学保健医療学部柔道整復学科２年生

2日目

朝食後にリオ デ ジャネイロの街を見学した．この日は，私が１番見たかったブラジルという国を知ることができた．

ホテル内でバスツアーの予約をし，ブラジルの観光地を巡ることとなった．始めに向かった場所はコルコバードの丘．ここは巨大なキリスト像が丘の上に建てられていて世界遺産として登録されている名所である．あいにく空は曇ってキリスト像の顔が見づらくなってしまったが綺麗な写真を一枚撮ることが出来た．

写真２　キリスト像（コルコバードの丘）

次に向かったのはポン ヂ アスーカルという名所だ．山のような巨大な岩をロープウェイに乗り岩から岩へと移動し観光する名所である．この岩の上から見るリオ デ ジャネイロの街景色は壮大であった．また，地上にはビーチがあり，そこから見る景色も美しかった．こうしてみるとこのリオ デ ジャネイロという街全体のほとんどが世界遺産ということも納得できる．

写真３　ポン ヂ アスーカル（上空から）

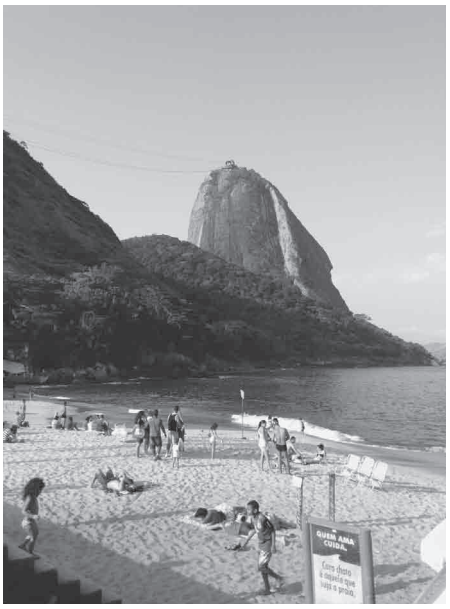

写真４　ポン ヂ アスーカル（地上から）

写真５　サンバカーニバル会場

そして次に向かう場所は，リオのサンバカーニバル会場だ．季節は違うがすでに準備期間に入り会場は立ち入り禁止であった．しかし，こうして実際に現場を見たことで私の夢はより一層広がっていった．

最後に向かった場所は私達が泊まっているホテルの近くにあるカテドラル メトロポリターナと呼ばれる，中は広く綺麗なステンドグラスが特徴的な教会である．観光地ではあるが教会の奥まで行ってみると実際に祈りを行う人がいた．日本ではあまり気にせず過ごしてきた宗教もこの国で医療を行う場合は考慮していかねばならないだろう．

ブラジルの風土や名所だけでなく，現地の人とも会話をすることができた．ここでは英語能力の大切さを実感した．外国語の語学力がないからこそ，積極的に話しかけること

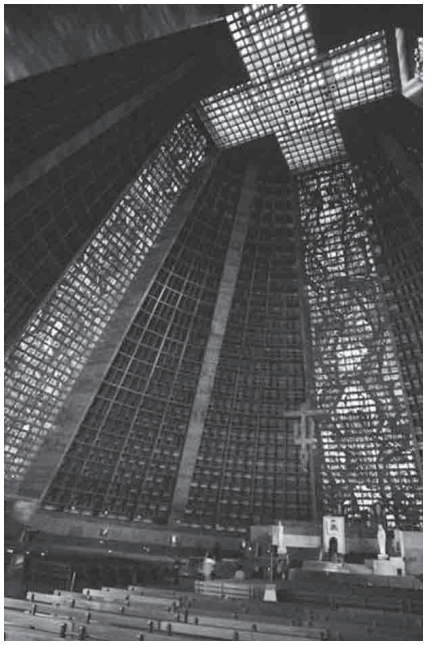

写真６　カテドラル メトロポリターナ（教会）

を心掛け，ジェスチャーや本などを駆使して伝えてみた．言葉が通じなくても互いに笑い，一緒に写真を撮ることも可能であった．日本を出たからには，「郷に入りては郷に従え」，日本では親指と人差し指で輪を作りＯＫ！といった動作は，ブラジルではまったく別の意味を持つ．私はこれからも積極的に海外研修に参加しようと心に誓った．そのために，語学を学び，その国独特の文化を知りたいと思っている．

夕方ホテルに戻ってから，発表前の実技チェックをしていた先生の部屋に呼ばれた．私が実技のモデルとなり包帯やテーピングを巻かれた．その際，「どう感じる」と質問され，私は単に自身が感じたことを伝えたところ，実際にケガをしている患者さんだったらどうだろうか，ケガの部位にストレスが掛かっていないか様々な方向に動かしてみて，「自分が患者だったらどうだろう，と考えながら評価しろ」と指導された．絶えず患者さんの目線になり，その心理状態を考えながら医療者として現場に立つことは当たり前のことである．その他にも，先生から質問されて答えられず，学んだはずのことを忘れてしまっていたこともあり，勉強不足を痛感させられた．

この日の夜は，皆さんと夕食を摂るために外出したが，その外出先で黒人に「money，money」と襲われ，皆で大変怖い経験をした．日本の治安の良さを知ることとなった．

写真7　久米先生による口頭発表（About Judo Therapy）

3日目

いよいよ学会当日である．私は日本でも学会には今まで参加した経験はない．しかも今回は国際学会で，日本人だけでなく外国人も多く参加する．不安と緊張はブラジルへ出発する飛行機よりも遥かに高まっていた．

オープニング セレモニーから全て英語であったため，発表も全く意味がわからなかった．本学からは徳安先生がポスター発表，久米先生が口頭発表と実技発表を行った．私は基本的に先生方の写真撮影と実技のモデルに徹したが，発表や質問への応答を一生懸命英語で伝えている姿に感動した．日本語であっても大変であろう研究発表，私も１年半後には卒業研究を行うことになる．この学会に参加することで得られた経験を踏まえ，資格取得後にも積極的に研究し発表してみたいと感じた．

写真８　久米先生による実技発表

写真９　ポスター発表２位受賞（徳安先生）

4日目

この日の夜中にブラジルを後にするため，ホテルをチェック アウトしてから，せっかくなので世界柔道選手権大会を見学した．初めて世界大会を見たわけだが，予選後の開会式ではブラジル音楽や，ダンスありで，想像以上の迫力だった．その日は軽量級の試合で，久米先生が診ているモンゴルの選手が女子は優勝，男子は準優勝と活躍し，最後まで楽しむことができた．先生方に「世界選手権の試合など見たくても簡単に見られるものじゃないんだぞ」と言われ，すごい経験をしたことを知った．

短い期間ではあったが，この旅の経験で得られたことは今後，自身の生活に必ず活かしていかなければならない．こうして実際に一部ではあるがブラジルの土地を目にしてみると，治療院らしい場所は見つからなかった．ここの国の人々も医療不足に苦しみ生きていることは間違いないだろう．そして最初に述べたように，私の将来の夢はブラジルで医療活動をすることにある．この夢を実現させるためにも言語能力，コミュニケーション能力，そして医療者としての知識と治療技術能力をしっかりと身につけていきたい．

最後に私にこの機会を与えていただいた先生と，旅程中，様々なことをご指導していただいた先生方への感謝を忘れることなく，今，自身に与えられている勉強をしっかりと行いながら，語学を身につけ夢に向かうことを胸に誓い，私の報告を終わりたい．

写真10　世界柔道選手権大会(2013)